

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	藤児童発達支援センターくれよんはうす		
○保護者評価実施期間	2025年12月10日		2025年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2025年12月10日		2026年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月14日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○保護者との連携 1) 家族支援 ・子どもの発達や課題を共有し、育児相談の機会がある。 ・子どもの理解へ向けて保護者勉強会を実施している。 ・親子行事や親子参加活動体験で適切な関わり方を一緒に考え提案をしている。 ・延長支援(保護者の就労やレスパイトも含む)	○幼児期の子どもの発達の基盤となる保護者を支える ・月1回の親子個別指導・面談で、子どもの成長と課題を保護者と一緒に共有する機会を設けている。 ・子どもの理解や将来を見据えた視点で様々なテーマでの勉強会を実施している。又、その後の懇談会で保護者同士が顔を合わせて話せる場を設けている。 ・子どもと一緒に参加する活動の中で、子どもの理解や適切な関わり方を学ぶ体験の機会を設けている。 ・延長支援は午前8時30分～、午後17時迄実施している。	・保護者同士のつながりを深めるために、茶話会等も企画していく。
2	○関係機関との連携 ・発達支援連絡会の参画や、自立支援協議会の障害児部会への参加をしている。 ・就学へ向けての移行支援を実施している。 ・併行通園児の集団生活先に訪問し連携している。 ・隣接のこども園との交流で健常児との交流をしている。	・関係機関との連携をしていくことで、支援の充実・向上と共に児童発達支援センターとしての役割の地域貢献に務めている。 ・お子さんがスムーズに新しい環境下でも過ごせるように支援の引継ぎをする。 ・併行通園児は集団生活場面状況を確認し、発達課題を併行先と共有している。 ・隣接のこども園と活動や行事で交流しインクルーシブ活動を実施している。	・今後も市の発達支援連絡会や障害児部会において地域としての課題を振りかえり、より良い地域の福祉サービスへ向けて役割を担っていく。 ・児童発達支援のみを利用している方にも幼保小連携の様に就学先に引継ぎを今後も実施していく。 ・今後も併行先と連絡を取りながら、課題共有や役割を確認して支援を進めていく。 ・今後も積極的に交流を実施し、インクルーシブ活動の充実へ繋げていく。
3	○適切な支援の提供 ・区分3(3時間以上5時間未満)の支援時間を活用し幼児期に必要な全般的な支援(5領域の支援内容)を実施できている。	・5領域の様々な活動を体験できるように支援プログラムや活動場所を工夫している。 ・幼児期に必要な基本的な生活習慣面の指導により、継続支援を行うことでADLの向上へ繋がっている。(給食:様々な食材や皆とおいしく食べる経験、食具の操作やマナーの向上)(排泄:トイトレで向上へ)(着脱:手順や体や操作の仕方、持つ部分への意識など)	・基本的な生活習慣面の支援は、身体感覚面や対人面・社会性、認知面を土台であることを踏まえつつ、今後も積み重ねられるように継続して実施していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○地域にむけて開かれた事業運営 ・地域住民に向けて施設開放や行事等に取り組むこと	母体施設は養護施設という特性上、個人情報厳守で積極的な地域開放はできていない。	・子どもや施設理解に向けて、合同の行事や社会体験教育活動等でこちらから地域に出向き、着実に進めていく。
2	・兄弟児への支援	活動スペースの確保や他の様々な行事等とのバランスや職員の業務負担の考慮のため	・今の行事の中で取り組めるものを再検討して組み入れを検討する。
3			

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		藤児童発達支援センターくれよんはうす		公表日		2026年 2月 27日		回収数		19	
				利用児童数		21名					
		チェック項目				ご意見		ご意見を踏まえた対応			
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない						
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	2				指定基準より広いスペースですが、活動により広い体育館や園庭を使用し運動の拡大と情緒的解放を図っております			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	16	2		1	一日に何人いるのかきちんとわからない。これまで定められた先生の人数よりかなり多くの先生がいたせいか、少なく感じます。先生の負担が増えていないか心配です。	以前より職員数は減りましたが、現在も設置基準よりプラスの人数配置で対応しております。			
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16	2		1	他のお子さんの様子は詳しくわからないので、わからないにしました。我が子については、とても広い空間です。	お子さんの特性に合わせて、わかりやすい支援（環境調整や視覚支援等）を整えて実施しております。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	19				とても明るく綺麗で、心地よく過ごせていると思います。				
適切 な 支 援 の 提 供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18	1				今後も外部研修や職員研修を通して支援力向上に向けて努力してまいります。			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19								
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19				安心してお任せできました。				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19								
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19								
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	1			子どもたちが飽きずに楽しめるようにプログラムを考えて下さっています。発達に合わせて指示の仕方や制作物が変わる点が良いと思います。	支援内容プログラムはどの曜日に来ても5療育の内容が体験できるようにプログラムで組んでおります。			
11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	19				こども園での交流のお店屋さんごっこはすごく楽しかったようです。コロナがあけてから交流が増えたことがありがたいです。	隣接の藤こども園とインクルーシブ活動で行事や活動の交流を実施しております。				
保 護 者 へ の 説 明	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19								
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19								
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	19				保護者勉強会は、ほぼ全部参加しましたが、もし来年以降同じ内容でも、自分を見つめなおすために、もう一度受けたいような充実した内容でした。平日なので中々参加できない。保護者勉強会でペアトレを学んでから、とても興味があり、市での開催の講座も受けました。きっかけを下ったことに感謝です。	様々な視点や分野での保護者勉強会を再考しながら、今後も引き続き取り組んでまいります。			
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	18			1	登園の際に、家での様子を聞いてくださったり、園での様子をこまめに伝えて下さっています。	今後も日々の送迎の際や、定期的な親子面談などで情報共有を今後も行ってまいります。			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19				月に1回個人面談の場を設定して頂いています。いつも話を聞いてくれて助言等して下さり心強いです。	定期的な親子面談等でお子さんの関わり方のヒントや育児の相談などの機会を今後も行ってまいります。			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18			1	発達障害児の親としては、中々共感されることはないのですが、先生方の共感の姿勢にとても助かっています。いつも心を軽くして頂いています。本当にいつも温かい見守りに感謝です。	研修で学びを深めたり、引き続き、保護者の方と一緒にお子さんの育ちに向けて取り組んでいきたいと思っています。			

等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	15	3	1	1	「兄弟向けの何か」もやってほしいです。兄弟への行事はよくわからない。クリスマス会では、初めて兄弟児の参加がOKになりましたが、すごく良い試みだったと思います。	父母の会は設定しておりませんが、引き続き保護者勉強会後の懇談会や親子参加活動や行事等で、保護者同士の場の機会を設定してまいります。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	1				今後も、定期的な相談の他に、要望に合わせて迅速に対応する機会を作ってまいります。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17	1		1		今後も、保護者や子どもに沿った形で、電話等での対応や、それぞれの子どもに合わせた形での手段を用いて行ってまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	1			連絡アプリを使用することになり、より迅速な対応ができるようになった。（特に感染症）	今後も連絡アプリを活用し実施してまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19				家でも地震が起きた時に、「地震だね逃げるの？」と子どもが冷静に指示を仰いでくれてびっくりしました。訓練を行っているおかげで実際に対応できた。	今後も避難訓練を毎月1回以上は実施して参ります。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18	1				今後も環境整備や安全に留意しながら実施してまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	1				今後も保護者説明会や面談などで説明を実施してまいります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	19				安心感につきます。過ごしやすい環境であり、職員の方々の対応がとても安心するんだと思います。	今後も安心して、自分を表現・発揮できる環境になるように取り組んでまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	16	3			ニコニコ笑顔で通っています。環境や活動内容が楽しく本人に合っていると思います。毎回通所を楽しみにしています。毎朝ニコニコ登園してくれています。大きくなるにつれて、幼稚園に行きたいということが増えてきましたが、くれよんはうすすす行くこと楽しみにしています。	発達過程による自分へのきづき等の不安も受け止め、お子さんにとって安心して自分を表現し、沢山期待をもって登園できるように職員一同で研鑽をし、活動内容の充実を図ってまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	19				大大大大満足感謝しかありません。非常に丁寧に子どもたちをいつも肯定的に受け止めて支援して下さりとても感謝しています親子共々満足です。ここを利用して本当に良かったと思っています。くれよんはうすすすの支援があったからこそ、子供の成長だけでなく、親も成長できたと思っています。右も左もわからなかった親子に手を差し伸べて下さり本当にありがとうございました。	今後も、保護者の皆様に安心して通園してもらえるように、支援の充実とともに、理解を深められるように取り組んでまいりたいと思います。

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名		藤児発達支援センターくれよんはうす		公表日		2026年 2月 27日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		基準に基づいており、運動などではそれ以上の活動スペースが確保されダイナミックな活動が行われています。	活動に合わせた形で、余裕のあるスペースに変えていることを、保護者にも積極的に伝達していきます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		基準に基づいて確保されています。	基準以上の配置数ではありますが、保護者に理解をいただけるように取り組んでまいります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		絵カードなどを使い、視覚的にもわかりやすくしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		衛生面にも気を配り、清掃や消毒を毎日実施している。	活動に合わせた形で、余裕のあるスペースに変えていることを、保護者にも積極的に伝達していきます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		活動内容に応じて、グループ分けや、個別で実施し工夫して行っています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		会議等で情報の共有化を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		自己評価で実施しております。又、行事等では、その都度保護者からの感想や意見をいただき、業務改善につなげています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		活動は定期的に振り返り、行事はその都度振り返りの機会を作り、全職員で課題を共有し改善につなげております。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		弁護士などの外部の第三者委員ではないが、社会福祉法人の選任による第三者委員があり、サービスにおいて苦情・受付等について中立的な立場で助言をする体制を整えております。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8		園内外の研修に参加し、資質の向上に努めている。	今後も、職員一人ひとりの研鑽を詰めるように積極的に研修に参加させたり、勉強会を行ってまいります。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		ホームページに公表され、保護者説明会でも配布しております。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		現在は遠城寺式発達検査や、日々の行動観察のアセスメントを実施しています。	客観的な指標としての発達検査を活用できるように、今後も研鑽に取り組んでいきます。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		ケース検討会議、支援計画策定会議を実施している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		実施しております。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		行動観察のアセスメント等で実施しております。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		保護者からの要望や子どもの発達段階に応じて検討・設定をしている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		担当が原案を作成し、皆で子どもの発達や現状に合ったものかを検討し実施している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		曜日別の利用児にも対応するように固定化せず、意欲的に取り組めるようなプログラムになっている。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		計画に基づき支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		日々、朝のミーティングで打ち合わせを行い、支援内容や進め方役割分担、子どもへの対応などの検討・共有し実施している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		できない時は、申し送りや朝のミーティングで取り上げて対応している。	行事等でできない時もありましたが、申し送り等で職員一同で情報共有を行う形で次への支援に今後も繋げてまいります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		療育日誌を日々記載し、月毎にケース記録で支援目標と照らし合わせ成長や課題を確認し検証しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		半年に一回のモニタリングで実施しております。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		状況を把握している児発管が参画しております。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			保育・教育などの関係機関との連携はできていますが、医療や保健との支援を行う体制はありますが連携を深めてまいりたいと思います。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		隣接の同法人内のこども園と、インクルーシブ教育に向けて、積極的に交流を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		保護者の意向を確認したうえで、地域小やとく別支援学校へ情報提供とともに、一緒に付き添い参加の仕方の練習も行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	8		青森市発達支援連絡会に参画し、地域課題や事例をあげて支援の向上に向けた検討会議を行っている。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	8		職員を研修に派遣している。	今後も積極的に、様々な分野への研修に参加させていきたいと考えております。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	8		地域の障害児部会に積極的に参加している。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8		同法人のこども園と行事や活動の交流を積極的に実施し、インクルーシブ活動へ繋げている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		活動内容やこどもの様子など共通理解を図り、フィードバックしている。また、遊び方や関わり方の提案をしたり、実際に一緒に取り組んで共有している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		保護者勉強会を実施し、保護者支援を行っている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		実施しております。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		子どもにとっての最善の利益を考慮し取り組んでいる。アセスメント面談などで保護者の意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		保護者に説明し、共有認識を図り同意を得た上で実施している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		月に1回は定期面談を設けたり、連絡帳や電話などでも対応している。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		父母の会の組織としてはないが、保護者勉強会の後で懇談会を設けて、話をする場を提供し機つながらを支援している。又、今年度からクリスマス会の行事で兄弟の参加の場を設けている。	今後も、兄弟同士の交流する会に向けて検討していきたい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		迅速に支援を行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		園日よりとして、ポータルサイトなどで活動概要などを発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		施設可能な書庫に保管し十分留意している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		保護者やお子さんに合わせて、配布文書を個別に説明したり、面談や電話の場を設定して配慮しております。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		地域の避難訓練の行事等で参加している。	今後も個人情報の兼ね合いに配慮しながらも、地域との交流を法人の他施設と一緒に取り組んでまいります。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		保護者説明会で説明し、書面で配布しております。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		想定内容を踏まえて、避難訓練を実施し、非常時に対応できるようにしている。	今後は一人一人の保護者の方が明確にわかるように詳しく説明をしていきたいと思ます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		アセスメント面談で確認し、その子どもの症状や経過等を把握し書面で共有確認し、その対応へ備えている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		現在はいないが、アセスメント面談で確認し、医師の指示書に基づく体制はできている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		保護者説明会で説明し、書面で配布しております。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		保護者説明会で説明し、書面で配布しております。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハットを作成し、その時期に起こりやすい事例から予防ができるように全職員で会議で共有し心がけている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		園内外の研修に参加し、また、園内でも職員研修を実施し、意識を高めて予防に努めております。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		対象となる園児の保護者に丁寧に説明し、同意を得て計画にも記載しております。		